

振り返り会議～みんなで決めよう！これからの市民協働～ 要点録

1. これまでの経緯について（図書館長 渡邊）

投影資料：「振り返り会議 投影資料」参照

経緯の詳細については図書館 HP 掲載の報告を参照

- ・令和6年2月～3月に実施したデザイン会議から始まった、企画募集・4月に実施した企画決定会議など企画実施までの流れを振り返り、今後の方針を決める会議。
図書館は事務局となり、今後の方針をみなさんと一緒に決めていく。
- ・今回行うことは以下の3つ。
 - ①実施したイベントを振り返る
 - ②イベント企画から実施までの流れについて協議する
 - ③今後のイベント企画・実施の流れを決定する

2. 行ったイベントの振り返りについて（企画者発表）

- ・企画者が参加している場合は企画者が報告し、企画者不参加の場合は図書館が報告書を代読。
- ・開催済の、以下の5件のイベントについて振り返りを行った。
 - ① 7月21日開催
「ひらめきと身体でつくる空想の世界」
 - ② 7月27日開催
「ライブラリートーク～未来ビジョン！市民のための図書館の未来を語ろう～」
 - ③ 8月3日開催
「みんなで読もう！みんなで聞こう！夏」
 - ④ 7月26日・8月21日開催
「夏休みの宿題おたすけ隊」
 - ⑤ 9月15日開催
「天文学者×フラダンサー 心が豊かになる休日～ハワイの月と星～」

【参加者質問】

- 参加者1 本日はイベントの振り返りだけで終わってしまうのか？
図書館 振り返りだけでなく、協議を行う。

参加者 1 図書館デザイン会議は各回 40 名程度の参加があったが、実際の企画応募は 22 件だった。図書館としてはこの応募件数についてどのように考えているのか。

図書館 22 件は多くいただいたという認識でいる。実際に企画を提出するとなるとハードルも高いため、約 40 名の参加者のなかから半数の申込をいただいたということで、多いと認識している。

参加者 1 22 件の応募について、図書デザイン会議参加者以外からの応募は何件か。

図書館 確認する。

⇒確認後 22 件中図書館デザイン会議参加者以外からの応募は 3 件

参加者 2 7 月実施決定した「体感！絵本の世界 『めずらしいお仕事』を想像して創造してみよう！」が、実施タイトルは「ひらめきと身体でつくる空想の世界」に変わっている。絵本を使う企画ということで賛同した方もいたと思うが内容はどうだったのか。

運営者 具体的に内容を検討していく中で、著作権の都合上、絵本の利用は難しくなった。

図書館 当初基にした絵本をそのまま使ったわけではないが、内容が全く違うイベントが開催されたというわけではない。

参加者 2 著作権等は企画当初に検討の上で企画が提出したほうが良いと考える。

図書館 完成度が高いイベント企画で応募していただくことが理想だが、より広く募集し新しい方にも参加していただきたいため、バランスを考えることが必要。

3. 全体の流れの振り返り、協議

振り返りシート 参照

・以下の 4 つに分けて振り返りを行った。詳細、意見は振り返りシート参照。

- ①企画募集について
- ②企画決定会議について
- ③開催準備について
- ④イベント開催について

4. 今後の流れについて

- ・図書館としては、今後も市民協働イベントは継続したいと考える。
 - ・企画募集、企画決定の流れを半年に一度開催したいと考えている。
- 次回は令和 6 年 12 月に、令和 7 年 4 月～9 月開催のイベントを募集し、令和 7 年 1 月

に企画決定会議を行うことはどうか。

【会場意見】

参加者 1 定期的に開催したい事業について、このように毎回応募⇒決定の流れを踏むことはハードルが高い。振り返りの中で反省をしながら進めていくことは必要かと思うが、おはなし会のように定期的に図書館と共に開催できるようにならないか。特に地域館での事業など。

参加者 2 地域館の役割を今後（仮称）第二次多摩市読書活動振興計画でも検討していくと把握している。こういった市民協働事業を中央館だけでなく、地域館でも提案できるような形を検討してほしい。

参加者 3 今日のような見直しの機会（振り返り会議）を定期的に行った方が良いと感じる。その中で募集回数や募集方法などについても検討してはどうか。

参加者 4 実際に市民協働イベントに参加して、イベントを通して図書館に初めて来館した人が多いことを実感した。中央図書館は立地も良いため、今後も事業をやる義務が生じているように思う。現在行っている話し合いの中でも、意見がたくさん出ているため、今後も続いてほしいと感じている。

参加者 5 無理に半年サイクルですぐに実施しなくてもよいのではないかな。せっかく市民間で話し合うベースもできているため、振り返り会議を追加で行うなど、協議を積み重ねて、無理なく新年度からスタートでも良いと感じる。

参加者 6 図書館デザイン会議で話があった「イベント企画運営ボランティア」について、どういう手順で「ボランティア」になるのかが不透明。イベントをどうやったら実現できるか（アイデア出しなど）のサポートなどをする組織なのかと思っていた。常に図書館側が主体で行っていくことが市民協働だとは思っていない。

図書館 現時点で「ボランティア登録」のようなものはない。振り返り会議等で市民の皆さんの声を聴きながら今後考えていきたいため、現時点では組織化などは考えていない段階。

参加者 7 デザイン会議のなかで、自分たちの企画への意見をいただいたり、他の方が提案した様々な企画を聞くことで、実際に企画力が上がったと実感している。様々な立場の方々の意見を知る機会にもなった。今後も企画を持ち寄って話し合う機会を続けて実施してほしい。また、企画決定会議で落ちてしま

った企画をブラッシュアップする機会や敗者復活戦など、それぞれの企画のすり合わせなどの機会を設けると良いのではないか。図書館が地域のコネクターの役割を担っていると感じているため、今後も図書館からの情報をチェックしていきたい。

5. (仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画について

詳細は 第一回有識者会議資料を参照

- ・平成 28 年度に策定した「多摩市読書活動振興計画」の計画期間が令和 6 年で終了することに伴い、(仮称)「第二次多摩市読書活動振興計画」を策定中である。
- ・(仮称)「第二次多摩市読書活動振興計画」では、現在の「多摩市読書活動振興計画」と、子どもの読書活動の推進に関する法律に基づく「第三次第三次多摩市子どもの読書活動推進計画」を統合し、一体的に多摩市の読書活動振興を推進していくことを目的に策定していく。
- ・各課長が集まる策定委員会と、有識者会議を定期的に行い、令和 7 年度に策定を目指している。

6. その他

- ・今回は、イベント企画に伴う市民協働の話のみを行ったが、今後図書館デザイン会議で提示した「個人ボランティア」等についても、別途図書館で協議のうえ進めていきたいと考えている。
- ・来年度市民協働についてのフォローアップ講座を予定している。決定次第図書館ホームページに掲載する。